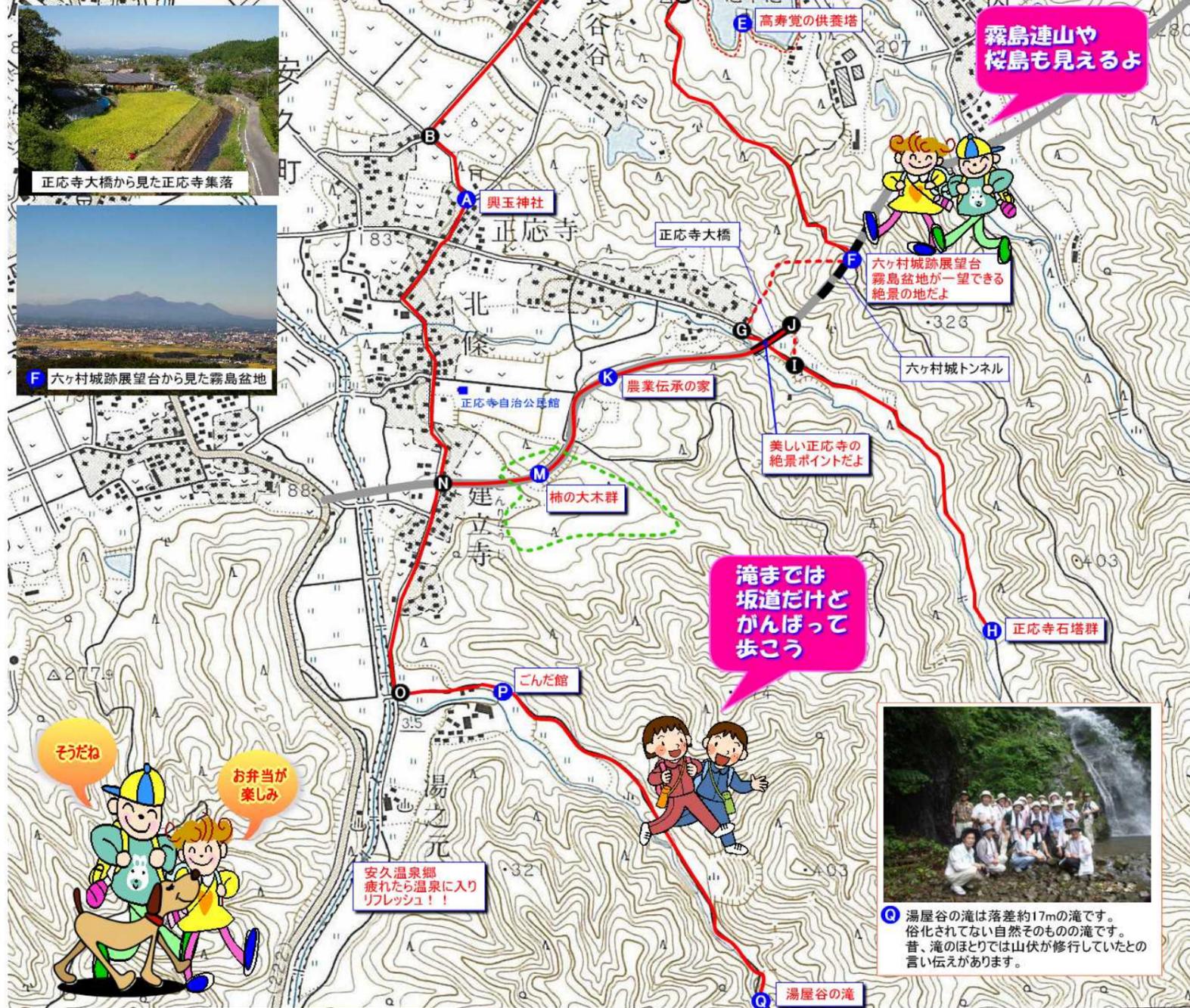


**田園空間博物館みやこのじょう  
正応寺(しょうおうじ)ウォーキングマップ**

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平20業複、第314号)



正応寺大橋から見た正応寺集落



F 六ヶ村城跡展望台から見た霧島盆地



安久温泉郷  
疲れたら温泉に入り  
リフレッシュ!!



湯屋谷の滝は落差約17mの滝です。俗化されていない自然そのものの滝です。昔、滝のほとりでは山伏が修行していたとの言い伝えがあります。

**M:柿の大木群**



柿のことを都城市安久地方の方言で「ごんだ」と言います。昭和30年頃(1955)までは、柿の名産地で、柿の稔る頃、正応寺地区は柿色に染まりその美しさに遠くから見学者が訪れていたそうです。  
しかし農業情勢の変化に伴い、柿の木は切れ、今は僅かに残るだけとなった。正応寺では今、「やっさごんだの見える風景復元」に取り組んでいます。大木群は昔の名残を伝える貴重な柿の木で、柿が稔る頃の美しい樹形は必見です。

**正応寺の雲海**



**アクセス**

- 都城市内から10分
- 宮崎市から1時間30分
- 小林市から1時間10分

**A:興玉神社**



本殿内の厨子は国の重要文化財です。1km東方にあった正応寺薬師寺の厨子と伝えられています。

明治初期の廃仏毀釈の時、住民の機転で興玉神社へ移転保存されたと伝えられています。

**E:高寿堂(こうじゅかく)の供養塔**



正応寺生まれの深見一覧は、中国へ渡り帰国後、島津氏の医者、唐通事(通訳)として仕え、寛永19年(1644)に長崎奉行所の唐通事になりました。

一覧が中国から帰国した翌年の寛永7年(1630)に養父母の供養として建立しました。

**H:正応寺(しょうおうじ)跡地石塔群**



仁安2年(1168)天台宗の僧禅定慶上人の弁済使用であった、永井氏によって建立されました。12坊を従えた広大な寺院でしたが、薩摩藩の廃仏毀釈で廃寺となりました。

薬師寺一体の山中には堂の土壇や礎石が完全に残り、中世の石塔群が数多く埋没しています。また本堂や客殿、方丈、鐘楼などの跡地も残り往事の壮大さが忍ばれます。廃物希釈で廃寺にならないければ都城の歴史が変わったと言われています。

**F:六ヶ村城展望台**



六ヶ村城は、薩摩藩の見張り所でも屯所でもあった。城は展望台の後ろの山で、山をループ状に六段階に切り崩した城である。山に登るとループ状の城跡が確認できる。

展望台からの眺望は絶景で、霧島盆地の四季折々の田園風景や市街地、霧島連山から桜島まで一望でき都城一の展望と正応寺地区の皆さんは自慢しています。

**K:農業伝承の家**



農業伝承の家は、田園空間整備事業都城地区で、古い農家を移築して建設されました。農村の伝統文化を伝える活動や地域活性化の核として利用されます。また各種イベント・コンサート等にも利用されます。

距離はマップメータ計測にて目安としてください。

区間	距離	区間	距離
A → B	180 m	I → J	30 m
B → C	640 m	J → K	350 m
C → D	240 m	K → M	320 m
池一周	300 m	M → N	140 m
D → F	910 m	M → O	610 m
F → G	380 m	O → P	210 m
G → H	370 m	P → Q	1,150 m

**てげてげコース**

A→B→C→D→E→D→F→G→H→I→J→K→M→N→A

歩行距離5.3km  
標準歩行時間(休憩含まない)1時間30分

**ぼっけもんコース**

A→B→C→D→E→D→F→G→H→I→J→K→M→N→O→P→Q→O→N→A

歩行距離9.3km  
標準歩行時間(休憩含まない)2時間40分

美しい農村風景と  
史跡めぐり  
ふるさどを感じてね



※本マップ編集者は、その内容に責任を負いませんので、個人の責任で使用してください。